

研究種目：若手研究（B）  
研究期間：2007～2011  
課題番号：19730115  
研究課題名（和文） 中国共産党による「党軍」建設と基層社会（1924年～1934年）  
研究課題名（英文）The foundation of the Chinese Red Army and its impact on local societies, 1924-1934.  
研究代表者  
阿南 友亮（ANAMI YUSUKE）  
東京成徳大学・人文学部・講師  
研究者番号：50365003

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：政治学 政治史 近代中国政治 中国軍事 中国共産党 国民国家 革命 動員

### 1. 研究計画の概要

本研究は、1920年代、30年代の中国における中国共産党による農民の動員と軍隊（紅軍）建設を主たる分析対象としている。この時期の民衆動員と軍隊建設の分析をつうじて、当時の共産党と基層社会との関係（共産党による支配浸透の試み、それに対する社会の反応、動員と戦争遂行の実態）を明らかにすることが本研究の主要目的である。また、中国で史料収集をおこない、その史料を用いて当時の実態について考察することに研究活動の主眼を置いている。

### 2. 研究の進捗状況

本研究では、これまで中国内外の研究で十分に活用されてこなかった広東省档案馆（公文書館）に保管されている1920年代、30年代の共産党の内部文書を数百点閲覧した。それをつうじて、当時共産党の重要な活動拠点であった広東省における民衆動員と軍隊建設の実態を明らかにした。その実態は、従来の定説とは著しく異なるものであった。

従来の定説では、共産党主導の土地革命（土地の没収・分配）が広東において大きな成果を収め、その恩恵を受けた農民が積極的に共産党の軍隊に加わったということが強調されてきた。しかし、1920年代、30年代の共産党の内部文書によれば、広東での土地革命は実際には計画どおりの成果を挙げることはほとんどなく、例外的に土地革命が実施された地域でも農民が共産党の軍隊に参加することは皆無に近かった。そうした状況下で共産党は、金銭、強制、血縁などを利用して兵隊を集めていたのである。

すなわち、これまで共産党の軍隊は、社会改革を契機とする党と社会との一体化を前提条件とし、社会の利益を忠実に反映した軍隊と位置づけられてきたのであるが、実際には、当時中国に蔓延していた傭兵軍隊や匪賊といった社会から遊離した人間で構成された集団に酷似した性格を帯びていたのである。こうした性格の共産党軍は、傭兵軍隊や匪賊と同様に、主として社会に対する収奪によって武器弾薬の購入に必要な財源を獲得していたのである。

以上のような1920年代、30年代の広東における共産党の軍隊建設の実態は、共産党の軍隊が社会改革を基盤にした画期的な軍隊であるという従来の定説を根本から見直す必要性を示唆している。

### 3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している。

（理由）当初の計画では、中国国内の省級档案馆での史料調査を試みるという方針を掲げたものの、情報公開に消極的といわれる省級档案馆で実際にどこまで史料調査ができるかは未知数であった。しかし、広東省档案馆では、共産党にとって非常に敏感な内容を含む1920年代、30年代の共産党の内部文書を数百点閲覧することができた。これは当初の予想・期待をはるかに上回るものであった。また、こうした貴重な史料を大量に閲覧できたことを主たる要因として、学術論文の執筆・発表も当初の計画よりもはやいペースで進んでいる。当初の計画では4年間で3本の学術論文を発表するという方針であったが、現時点で既に学術論文を2本発表済みで、もう1本も来月（2010年6月）に学術雑誌への

掲載が決まっている。すなわち、事実上約3年で論文を3本発表したことになる。

〔その他〕

#### 4. 今後の研究の推進方策

今年度は、これまで史料をつうじて分析してきた地域を広範に網羅した形の実地調査をおこなう予定である。また、この研究プロジェクトの一環としてこれまで執筆してきた複数の論文を土台として、特定の地域における共産党による軍隊建設と地元社会との関係について包括的な考察をおこない、その結果を一つの著作にまとめるための作業に着手したいと考えている。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

阿南友亮「広東における農民自衛軍の制度化と発展の過程(一九二四年～一九二七年)－国共合作期における革命軍隊の基盤形成－」、『法学研究』第81巻第1号(査読有)、2008年1月、41頁～100頁。

阿南友亮「広東における中国共産党の武装闘争と動員－海陸豊、一九二七年～一九二八年－」、『法学研究』第82巻第5号(査読有)、2009年5月、79頁～148頁。

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：